

# 開催にあたって

1995年の阪神・淡路大震災や2011年の東日本大震災の激甚災害は今でも多くの方の記憶に残っていることと思います。日本は世界の中でも地震が起きやすく、火山活動も活発な国です。また、日本の河川は急勾配であることから豪雨時には洪水になりやすく、河川の決壊や土砂災害が起きやすい特性があります。都市部においては、建物や道路などでアスファルトやコンクリートに覆われているため、大雨で浸水する都市型災害も多発する傾向にあります。さらに近年は、地球温暖化の影響によりゲリラ豪雨、台風による大雨、浸水、洪水、高潮などが発生しやすくなっています。

一昨年9月には北海道胆振東部地震、昨年8月には前線に伴う大雨による佐賀県を中心とした浸水があり、9月、10月には令和元年房総半島台風、（台風15号）令和元年東日本台風（台風19号）による強風や大雨で関東から東北地方にかけての広い範囲で浸水するなどの災害が多発し、各地に甚大な被害をもたらしました。

本企画展では、日本列島周辺のプレートの動き、活火山の状況、標高0メートル以下の土地、地震と火山、地震に伴う津波、洪水などのハザードマップをご覧いただき、日本の特性と傾向から地図を利用していただくことでリスクから身を守るための防災に必要な備えなどについてご紹介しています。

どこの画像でしょう？



写真出典：京都大学防災研究所

答え 桜島



胆振東部地震で発生した斜面崩壊（北海道厚真町吉野地区）2018年9月6日撮影（垂直画像）





熊本地震で発生した地滑り（熊本県南阿蘇村）2016年4月16日「くにかぜ」から撮影